

令和5年度 新田小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1) 基本目標
人間尊重の精神を基盤とする，知・徳・体の調和のとれた，心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成
- (2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）
 - ・よく考える子ども：規範意識をもち，自ら考え，進んで学べる子ども
 - ・思いやりのある子ども：自他のよさに気付き，共に伸びようとする子ども
 - ・体力のある子ども：心身ともに健康で気力や体力に満ちた子ども
 - ・はたらく子ども：目標の実現に向けて粘り強く取り組める子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が一丸となり，保護者・地域住民と一体となって連携・協働し，活気と創意に満ちた教育活動の展開を通して，目指す学校像に迫る。

《目指す学校像》

- 子どもたちが安心して生き生きと自己発揮できる「どの子も輝く学校」
- 教職員が互いに学び合い磨き合う「働きがいのある学校」
- 保護者にとって「通わせて安心な学校」
- 地域住民と連携・協働する「地域とともにある学校」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 互いに認め合い自己発揮できる「活気あふれる学校」

- ・互いの違いやよさを認め合うきめ細かな支援を行い，すべての児童にとって居がい感のもてる温かい雰囲気の学級経営を推進する。
- ・一人一人の内面理解に努め，よさを引き出せるよう一人一人を大切にする。
- ・道徳科を核にした心の教育や児童への認め励ます教育により，思いやり，自己肯定感・自己有用感を高める。
- ・「宇都宮モデル」を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を展開し，学級を学びに向かう集団に成長させていく。

(2) 児童や保護者にとって「安心・安全な学校」

- ・児童が心身共に安心・安全で，潤いのある教室環境や整備された学校施設の中で生活できるよう，温かい人間関係の醸成や学びを高める環境の整備・活用，校舎等の点検・整備に努める。
- ・児童のよさや学校・学級情報を積極的に発信したり，きめ細かで誠意のある対応を心掛けたりして，保護者との連携を密にし，共通理解を図る。
- ・家庭や地域の声を収集し，問題点を速やかに工夫・改善するなど誠意ある対応をする。
- ・教科体育の充実，外遊びの奨励等を通して体力の増進を図るとともに，健康を維持・管理する能力を育成する。
- ・PTAによる見守り活動と連携を図ったり，交通安全教室，避難訓練などを実施したりして，児童自らが危険を予測し回避する行動力を身に付ける指導を強化する。

(3) 人間性豊かな教職員が互いに「学び合い磨き合う学校」

- ・創意ある提案や意見交換を大切にしながら，教職員の資質・能力の向上を目指すとともに，学校全体の組織力向上に努め，学校経営への参画意識を高める。
- ・協働遂行力・授業力・学級経営力・特別支援教育力の4つの教師力を身に付けるため，教職員の資質・能力向上策を推進する。
- ・県の「学校における働き方改革推進プラン」及び市の「児童と向き合う時間の充実のためのアクションプラン」に基づき，「勤務時間を意識した働き方」「校内業務の効率化」「ICTの効果的な活用」の推進を図る。

(4) 地域住民と連携・協働する「地域とともにある学校」

- ・地域学校園や児童会の取組，及び家庭・地域との連携を生かした「あいさつ運動」を通して，規範意識を高める取組を推進する。
- ・地域の教育資源と地域人材のさらなる開発と活用の工夫を図る。

- ・学校支援ボランティアや下校ボランティアなど、高齢者をはじめ、学校を支えてくれる方々への感謝の心を育むよう努める。
- ・学校だよりやHP等による情報発信を積極的に推進する。

【若松原地域学校園教育ビジョン】

「つなげよう学び 鍛えよう心と体 共にのびよう WGS 学校園」

4 教育課程編成の方針

- (1) 関係法令、県教育振興基本計画 2025、市学校教育スタンダードや指導の重点などを踏まえ、学校経営方針に基づき、知・徳・体の調和のとれた教育活動を展開し、教育目標の達成を期する。
- (2) 「社会に開かれた教育課程」の視点に立ち、社会の変化に向き合い適切に対応していくため、学校教育を通して育むべき資質・能力を明確にし、教科等の関連や地域の教育資源や人材活用を図り、適切かつ、一貫性のある教育過程の編成に努める。
- (3) うつのみやマネジメントシステムによる評価等を踏まえ、実態に即した創意ある教育課程の編成につなげる。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
個と集団を育てる教育の実践，組織力・同僚性による効率的な職務の遂行，家庭・地域と一体となった取組の推進などによる，活気にあふれ信頼される学校づくりを推進する。
 - ・「認めて伸ばす教育」の実践
 - ・あいさつの響く学校づくりの推進
 - ・わかる授業と居心地のよい温かな学級集団づくりの推進
 - ・読書活動の推進
 - ・勤務時間を意識した効率的な業務の遂行
 - ・子どもの姿を伝える情報発信
- (2) 学習指導
「自ら学び，互いに高め合う児童の育成」
～児童の「わかる！」「考える！」「伝える！」を高める授業の工夫～
 - ・望ましい学習態度，習慣の定着
 - ・「学力の基礎・基本」の確実な定着
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
 - ・読解力・表現力の育成
 - ・読書活動の推進
 - ・家庭学習の習慣化
 - ・1人1台端末の活用
- (3) 児童生徒指導
「自他への思いやりの心を持ち，豊かな人間関係を築くことができる児童の育成」
～いじめ根絶に向けた取組の充実および個に応じた継続的な指導を通して～
 - ・礼儀を意識したあいさつの定着，規範意識の醸成
 - ・自己肯定感，自己有用感，自己指導能力を育む学級経営の工夫
 - ・主体性や思いやりを育むための縦割り班活動及び異学年交流の充実
 - ・奉仕の心を持ち，自ら進んで仕事に取り組む態度の育成
- (4) 健康（体力・保健・食・安全）
「自らの健康に関心を持ち，望ましい生活習慣を身に付けようとする児童の育成」
～生活習慣の改善を目指した取組を中心として～
 - ・健康の保持増進
 - ・運動の日常化
 - ・食に関する指導の充実
 - ・判断力・行動力を育てる安全教育
 - ・家庭・地域との連携

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は, 友達と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 85%以上	・興味・関心を高めるための授業の導入や展開, 指導法を工夫改善したり, 認め合い高め合う集団づくりなど学業指導を継続して実施したりして, 児童の学習意欲を高める。 ・学習活動(言語活動, 観察・実験, 問題解決的な学習など)の質の向上に努めるとともに, 対話の中で互いの思いや考えを深め合う授業展開の工夫に努める。 ・進んで学習に取り組むための具体策を子どもたちと共有するとともに, 児童の頑張りを積極的に認め, 各種たより, ホームページ等で, 保護者に伝えていく。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 91.4%で数値指標を達成した。職員の肯定的回答率は 64.0%と昨年よりも 23.5 ポイント下回った。 【次年度の方針】 日頃の学習や生活の中で, 児童が主体的に判断・実践できる場を計画的に設け, 意欲の向上を図る。また, 1人1台端末を活用し, 協働的な学びを進めるとともに, よりよい授業になるよう, 全教職員で指導法を工夫改善する。一人一授業を実践し, 互いに学び合うことで教師の授業力向上を図る。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は, 誰に対しても, 思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答率 90%以上	・本校及び地域学校園道德教育の重点項目の一つに「思いやり・親切」を掲げ, 各教科等や体験活動等と関連した道德の授業を連携・工夫して実施することで, 思いやりの心を育む。 ・特別の教科道德及び人権教育年間指導計画に基づき, 教育活動全体を通して計画的に道德及び人権教育を実施する。 ・わくわくタイムでの縦割り班遊びや清掃活動, 兄弟学年や幼保小連携活動等を通して, 助け合いや思いやりの心を育てる。 ・帰りの会などに友達の良いところを認め合い称賛する機会を設定することで, 相手を思いやる行動を広げていく。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は, 教職員が 88.0%で数値指標を下回ったが, 保護者は 95.3%で, 数値指標を上回っている。昨年度よりも教職員は 3.7 ポイント下回り, 保護者は 3.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 学級・学年経営, 道德, 学級活動などの時間を活用し, ソーシャルスキルトレーニングを行うことで, 人権を尊重する心を育成しつつ, 児童一人一人のよさに目を向け, 児童の自己肯定感を高めながらよりよい成長を促す取組を行う。 異学年交流などを通して, 助け合いや思いやりの心を育てるとともに, 帰りの会などを活用して, 今日のキラリ賞と題して, 友達の良いところを認め合う機会を設定する。

	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答率 80%以上	・学級活動や各教科の授業や各種検定等において、児童が目標に向かって粘り強く取り組み振り返る機会を設けるとともに、教職員が児童の変容を見取り称賛していく。 ・1日の終わりや学期の節目等に、児童が相互に認め合う場や、称賛し合う場、教職員が認め励ます場を工夫して設定し、「きらり賞」や「宮っ子心の教育表彰」などを通して、児童の自己肯定感を高められるようにする。 ・道徳科の「希望と勇気、努力と強い意志」の学習を通して、粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践意欲を高めていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答は、88.5%で数値指標を上回ったが、昨年度よりは0.7ポイント下回った。学校行事等が元に戻り、児童の活動量が増えたことにより、負担を感じてしまった結果と考えられる。 【次年度の方針】 学級活動や各教科の授業、各種検定等において、夢や目標をもつことや、日々の努力の大切さを実感させ、粘り強く意欲的に取り組めるようにねらいを設定していく。 1日の終わりや学期の節目等に児童が相互に称賛し合う場を設けたり、教職員が児童の頑張りを認めたりすることにより、自己肯定感を高めていく。 道徳科の学習で考えたことや、児童の思いなどを紹介する機会を設定し、実践意欲を継続できるよう工夫をしていく。
1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」⇒児童・教職員の肯定的回答率 90%以上	・児童が自分の健康に関心をもち、望ましい生活習慣と健康を管理する力を身に付けられるよう、様々な授業や学校行事等において「すくすくファイル」や「食育ファイル」などを活用し、養護教諭や学校栄養士などと連携して保健指導や日常の生活指導を行う。 ・栄養バランスのとれた食事や望ましい食習慣等、各教科・領域との関連を図った食育を推進する。 ・判断力・行動力を意識した安全教育を推進するために、登校指導や下校指導において、より一層児童の実態に即した安全指導を行う。また、交通安全教室、避難訓練等の計画を「判断力・行動力」の視点で見直し、全教職員の共通理解のもと実践する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 90.4%、教職員は 88.0%で、どちらも昨年を下回った。 児童が自分の健康に関心をもちことができるように養護教諭や学校栄養士と担任が連携したり、すくすくファイルや食育ファイルなどを活用したりして、保健指導、食育指導を行った。 授業を通して学校栄養士による給食指導や養護教諭による保健指導を行った。 自主的な運動を推進するために、運動委員会から呼び掛けを行ったり、なわとびチェックを実施したりして児童の意識の向上を図った。 交通安全教室や避難訓練を実施し、児童の判断力・行動力を養った。 【次年度の方針】 すくすくファイルや食育ファイルなどを通して、健康や安全についての振り返りを行い、児童の意識を高めていく。 養護教諭や学校栄養士と連携した指導を行う。 運動量が確保された体育の実践と、外遊びを推進し、体力向上を図る。 自ら主体的に判断し行動できる場面を設定した安全教育を推進していく。

1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 80%以上	・宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、キャリアパスポートを活用し、学級活動との連携を図りながら、児童が自分のよさに気づき、夢や目標をもって取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観及び職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ・生活科、社会科、総合的な学習の時間等、各授業において、家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする契機とする。 ・市内や地域での校外学習等を通して、多くの「人、もの、こと」に触れる場を設定することにより、それらのよさに気づき興味関心を高める機会とする。	【達成状況】 児童の肯定的回答は、88.5%で数値指標を上回った。学級活動や生活科・総合的な学習の時間等、教科横断的な取組の中で、児童が様々な体験を通して、達成感を感じることができた結果と考えられる。 【次年度の方針】 各教科や学校行事等と連携を図りながら、キャリアパスポートを活用し、自分のよさに気づき、夢や目標をもって意欲的に取り組むことができる児童を育成する。体験活動や交流活動を実施し、積極的に地域と関わろうとする態度を育成する。
2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 85%以上	・ALTを有効に活用した外国語活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ・教師自身がALTに積極的に関わり、放課後の打合せを綿密に行い、外国語活動の教材研究をしたり、公開授業や授業研究会に参加したりすることにより、自己の授業向上に努める。 ・他教科領域においても国際理解教育と関連付けて、グローバルな視点を育てるという意識をもった授業を行うよう努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 88.0%で数値指標を上回った。児童は 75.4%と昨年より 13.8 ポイント低下した。 【次年度の方針】 今年度同様、教師も ALT に積極的に関わり、放課後の打合せを綿密に行うようにすることで、児童が楽しみながら学習に取り組めるように努める。また、校内で児童の目に触れるところに、英語についての掲示をしたり、日常生活の中で担任が簡単な英語表現を進んで使ったりするなど、学習したことを生かせるような場面を増やし、親しみをもてるようにする。
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・宇都宮学の時間を中心に、伝統文化等を体験できる学習や、ICTを活用する機会を設けることで、宇都宮のよさを児童に気付かせる。 ・生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等を通して、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市のよさに気付く指導の充実に努める。 ・道徳において郷土資料を活用し郷土愛を育む。 ・教師自身が宇都宮市の歴史や文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 88.3%と数値指標を上回った。また、昨年度より 2.6%上回った。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続し、引き続き社会科や総合的な学習の時間で自らの暮らす宇都宮に関心が高められるよう指導する。また、伝統文化の体験や、ICT機器の活用を通して、児童に宇都宮のよさを気付けるようにする。可能な範囲で校外学習を実施し、身近な地域や宇都宮のよさに触れる機会を設定する。郷土資料を開発、活用するなど、教師自身が宇都宮市の歴史や文化について理解を深めるよう努める。

2ー(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 85%以上	・情報教育年間計画に基づき、各教科年間指導計画等と関連を図りながら、児童1人1台の端末やICT機器を活用し、AIドリルを併用して効果的な学習に取り組めるようにする。 ・市立図書館学校支援室や地域学校の学校図書館等を有効に活用し、各学年の学習のニーズに応じた教育図書の整備充実を図ったり、調べ学習コーナーを設定したりするなど、学校図書館及び校内の環境整備に努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率が89.8%、教職員の肯定的回答率が92.0%で数値指標を上回った。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続し、各教科、総合的な学習の時間等において調べ学習をする場合、図書資料から必要に応じて情報を得る経験を重視する。ICT機器を活用して、インターネットから検索する場合、情報の正確性について発達段階に応じて指導する。得た情報をまとめる場合に、1人1台端末を有効に活用させる。
2ー(3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 「わたしは、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 80%以上	・カリキュラムマネジメントの視点に立ち、各教科や総合的な学習の時間等、環境教育に関わる一連の学習を再構築し、効果的な指導を行う。 ・各種出前授業等、関係機関の教育力を積極的に取り入れて、環境問題への関心及び知識・技能を高めるとともに、これまでの生活を振り返り、自分にできることを考え実践しようという意識や態度を育成する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は90.4%で数値指標を上回った。教職員の肯定的回答率は、64.0%で数値指標を下回った。各学年の学習の中で、SDGsについて触れる機会が増え、関心が高まっている。 【次年度の方針】 各教科や総合的な学習の時間との連携を充実させるとともに、日常の授業や各種行事がSDGsの目標と関わりがあることに気付かせ、環境問題について啓発し、関心を高められるよう指導していく。
3ー(1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 90%以上	・特別な支援を要する児童について、担任が一人で抱え込むことなく、組織で適切に対応できるよう、小さな気付きを伝え合える職員室の環境づくりに努める。 ・特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、支援を要する児童について全教職員で共通理解を図り、個のニーズに応じた支援を組織的に行う。 ・必要時には即座に校内支援委員会を開いて対応を検討し、専門機関とつなげるなど、役割分担しながらチームで対応する。 ・適宜個別の支援計画及び指導計画を作成し、定期的に評価改善を加えながら指導支援を行う。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率は92%で、数値指標は達成しているものの、昨年度よりも3.8ポイント下回っている。引き続き、特別な支援を必要とする児童について、担任が一人で抱え込むことなく、教職員間で共通理解を図り、組織的に対応できるように努める。 【次年度の方針】 支援を必要とする児童について、今後も全教職員で共通理解を図り、児童の実態に応じた支援策を、教職員間で組織的に行う。必要に応じて、校内支援委員会を開き、専門機関とつなげるなどして、役割分担しながらチームでの対応ができるようにする。

A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上	・学級活動、道徳科の授業等を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。 ・児童会が主体となり、標語を作成したり、強調月間に校内放送で呼び掛けたりするなど、児童が自ら「いじめゼロ運動」を推進できるよう支援し、望ましい児童集団の育成に努める。 ・定期的なアンケートや教育相談等を通して児童の心の状態を共感的に理解した上で、学校いじめ防止基本方針に基づき、組織的な対応によりいじめの早期発見、早期解消を図る。 ・学校ホームページ、各種たより等を通して、行っている活動を保護者や地域に発信し、周知を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 96.5%と、数値指標を上回り、保護者の肯定的回答率は 79.6%で、数値指標を若干下回った。 【次年度の方針】 学校における全教育活動を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導し、日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。 児童が自ら「いじめゼロ運動」を推進できるよう支援し、望ましい児童集団の育成に努める。 アンケートや教育相談等を通して児童の心の状態を共感的に理解し、学校いじめ防止基本方針に基づき、組織的な対応によりいじめの早期発見、早期解消を図る。 学校の取組を保護者に知ってもらうために、学年だよりにいじめ防止に向けた取組を記載するコーナーを設けたり、学校公開日や授業参観等でいじめ防止に関する授業を公開したりする。
A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上	・児童が相互に認め合う場や、教職員がよさを認め励ます場を工夫して設けることにより、児童の自己肯定感を高められるようにする。 ・教育相談週間（年 2 回）や学校生活アンケート（年 4 回）、Q-U（3 年以上 1 回、5 年のみ 2 回）等を有効に活用し、実態把握と要配慮児童の早期発見に努めるとともに、必要時には迅速かつ適切な情報共有のもと、必要に応じて関係諸機関や家庭との連携を図りながら、組織的に支援を行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 96.7%、保護者の肯定的回答率は 93.0%で、どちらも数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 教職員が児童のよさを認め励ます場を設定し、分かる楽しい授業を心掛けるとともに、児童が相互に友達のよさを認め合う場面を充実させる。 教育相談やQ-U等により児童の実態把握をすると同時に、要配慮児童の早期発見に努めながら、組織的な支援・対応を継続していく。 不登校対策の手引書（宇都宮市）の合言葉「子どもに寄り添う学校づくり 抱え込まずにみんなで支援」に従って、全教職員共通理解のもとに支援を行っていく。

3-(3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活があり、明るくいいきとした雰囲気である。	・児童相互及び教師と児童の温かい人間関係を育む学級・学年経営を基盤に、学校全体が児童一人一人のよさに目を向け、児童に直接言葉を掛けたり、教師間でプラスのメッセージを伝え合ったりして、児童の自己肯定感を高める取組を行う。	【達成状況】 肯定的回答率は児童 96%, 教職員 100%, 保護者 89.9%, 地域住民 100%で、保護者の肯定的回答率は数値指標を0.1ポイント下回ったものの、昨年度よりも2.4ポイント上回った。全体的に見てもポイントは上昇傾向にある。
3-(4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強化	【数値指標】 全体アンケート「先生は、困った時に相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、楽しく学校生活を送れるようにしている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答率 90%以上	・児童会活動や異学年交流など、様々な教育活動の内容を見直し、兄弟学年や縦割り班等の異学年交流を効果的に取り入れることで、高学年児童がリーダーシップを発揮できるようにしたり、全学年の児童が体験を通して思いやりの心を育てるようにしたりする取組を推進していく。 ・教育相談や学校生活アンケート等を実施し、いじめ等の早期発見、早期解決に努め、全児童が安心して学校生活を送れるように全校体制で取り組む。	【次年度の方針】 昨年度と比較し、校内の良い雰囲気が醸成されてきたという結果が出ているので、同じ基本方針として、全児童対象の教育相談や学校生活アンケート等を実施し、いじめ等の早期発見、早期解決に努め、全児童が安心して学校生活を送れるように全校体制で取り組む。 これからも温かい人間関係を育む学級・学年経営を核に、学校全体が児童一人一人のよさに目を向け、児童の自己肯定感を高めながらよりよい成長を促す取組を、教師自身もゆとりをもって行うようにする。 更に、児童会活動や異学年交流等で、高学年児童のリーダーシップを発揮できる活動を継続していく。
4-(1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 90%以上	・授業のねらいを明確にし、まとめや振り返りで確認することにより、基礎・基本の定着を図る。 ・「分かる・できる・楽しい授業」を展開するため、児童の振り返りを生かした授業改善に努める。 ・チームティーチング、少人数指導、かがやきルームでの指導等を通して、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は96.5%で、数値指標を達成したが、保護者の肯定的回答率は86.0%で、数値指標を下回った。校内研修で、学習のめあてや振り返りを充実させたり、「分かる・できる・楽しい授業」を展開したりするなど、授業改善に努めることができた。児童一人一人の学習状況に応じた指導についても、組織的・計画的に取り組むことができたが、その取組について、保護者に十分に伝わっていないと考えられる。
4-(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上	・学校図書館司書や外国語指導助手(ALT)、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー(SC)等、多様な専門性を有する学校スタッフが、「チーム学校」としてよさを最大限に発揮できるよう、教職員間でコミュニケーションを図り、取組の目的や運営方針、方法等について十分に話し合い、共有して取り組めるようにする。 ・これまで以上に明るく和やかな雰囲気の中で信頼関係を築くことができるよう努め、情報交換や振り返りを通して改善を加えながら、報告・連絡・相談を徹底して進めることで、一人一人が十分に力を発揮できるようにする。	【次年度の方針】 授業参観やオープンスクールでは伝わりきらない授業での取組について、より保護者に周知できるように、学年だより等を活用して、児童の様子や学習の成果を発信していく。
			【達成状況】 教職員の肯定的回答率は84.0%で、数値指標を下回った。専門性を有する学校スタッフとコミュニケーションを図り、様々な情報を共有して取り組むことができた。一方で、担当学年ごとにチームとして協力して業務に取り組むことはできているが、職員全員での協力については、改善の余地があると考えられる。 【次年度の方針】 学年会を行事予定に明示し、提出物や話し合いが必要な事案について、今まで以上に協力して取り組むことができるようにする。また、個々が担当している校務分掌で力を借りたい時や、学校全体で相談したい内容について、全員で取り組むことができる時間を校内研修として確保する。

4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	・本校の教職員が精神的・時間的なゆとりをもって児童に接することができるよう、児童の実態等を考慮し、教職員の意見を反映させて教育課程や校務分掌、各業務を見直し、各種行事等の目的を明確にして、実施方法の見直し、改善、業務のスリム化を行う。 ・働き方改革の視点に立って、教職員一人一人が勤務時間を意識し、計画的、効率的な業務の処理、改善に努める。 ・学習情報システムや ICT をはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務の効率化を図る。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 84.0%で、数値指標を上回った。昨年度と同様の項目と比べると 30%近くも上回った。業務の改善に積極的に取り組んできたことと、リフレッシュカレンダーの活用による働き方改革を意識した教職員の意識の高まりの成果が出ていると言える。 【次年度の方針】 今年度の振り返りを生かし、教職員の意見をさらに反映させて教育課程や校務分掌、各業務を見直す。また、リフレッシュカレンダーをさらに効果的に活用できるように工夫する。それらにより、教職員がさらに精神的・時間的なゆとりをもって児童に接することができるようにする。
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答率 85%以上	・小中9年間を貫く教育が児童の望ましい成長につながるよう、目的や方法について全教職員が理解を共有し、連携して推進する。 ・WGS あいさつ運動や宮っ子チャレンジなど、中学生の行事等への参加などを積極的に受け入れ、地域の活性化を図る。 ・各種たよりやホームページなどで、小中一貫の取組の様子が分かる写真を数多く掲載するなど、保護者や地域に向けて積極的に発信し、理解と協力を仰ぐ。	B 【達成状況】 教職員と地域住民の肯定回答率は、どちらも 85%以上であり、数値指標を上回った。しかし、保護者の肯定的回答率は、昨年度より上回ったものの 76.8%で、数値指標を下回った。 【次年度の方針】 今後も年間を通して WGS あいさつ運動を積極的に実施していく。さらには、1人1台端末を有効に活用して、地域学校園内で交流ができるように促していく。保護者への周知方法は、さくら連絡網を活用したりホームページの充実を図ったりしていく。
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 80%以上	・地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施するとともに、人材発掘にも取り組んでいく。 ・カリキュラムマネジメントを推進する中で、教育活動に有効な企業等の教育力を積極的に組み込む。 ・交流学习やふれあい活動など、参観したり参加したりできる機会を多く設け、家庭・地域・企業等との連携を深める。 ・活動の内容を各種たよりやホームページなどで紹介し、活動への理解を促す。	B 【達成状況】 地域住民の肯定回答率は 92.9%、保護者は 84.2%であり、数値指標を大きく上回った。ただ、年度途中でコロナ感染症が5類に移行されたということもあり、学校支援ボランティアを計画的に活用できたとは言えなかった。 【次年度の方針】 学校支援ボランティアを計画的に活用し、教育活動の充実を図っていく。さらには、総合的な学習や生活科の年間計画を見直すことで、地域や企業と連携をさらに図れるようにしていく。オープンスクールも積極的に行い、地域の方々にも学校の様子を見てもらい、その感想を学校運営に生かせるようにする。

6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答率 85%以上	・学校の安全な環境を維持するため、安全点検実施計画に基づき、毎月、校内施設・設備の点検を組織的に実施し、危険箇所があれば迅速な改善や修繕に努める。 ・危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ・熱中症予防対策、感染症対策など、適宜必要な保健指導管理及び関係者への周知徹底に努め、温湿度計や加湿器、サーキュレーターなどを使って、適切な管理を行う。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 100%、保護者は 89.0%で、数値指標を達成した。 安全点検実施計画に基づき、校内安全点検や危機管理マニュアルの整備に努め、避難訓練を 4 回と全校生による引渡訓練も実施した。 機器を使った温度・湿度測定などを随時行ったり、アルコール消毒液を活用したりするなどして、熱中症や感染症対策を行った。 【次年度の方針】 安全点検を学年ごとに行うことで複数の目で点検をしていくとともに、危機管理マニュアルの周知徹底を図れるようにしていく。また、避難訓練等を確実に行うとともに、熱中症及び感染症予防のため、温湿度計や加湿器、サーキュレーターなどを使って、適切な管理を行っていく。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 教職員アンケート「私は、授業（授業準備も含む）や業務にデジタルを積極的に活用している。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上	・ICT 機器活用例一覧に、適宜授業等で行った実践例を入力し、情報の共有を図る。 ・校内研修を設定し、デジタルを活用した授業実践の情報交換を行い、教職員の指導力向上を図る。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率は、84.0%であり、数値指標にわずかではあるが届かなかった。 【次年度の方針】 情報教育主任を中心とした校内研修を定期的に実施していく。先進校の授業資料や映像も活用し、具体的な授業改善の方策が立てられるようにする。ICT 支援員が来校したときには、他校の実践例などを紹介してもらうようにする。 また、どの単元のどの時間でパソコンを活用すると効果的なのかについて検討し、年間指導計画書に記入し全職員で共有できるようにする。データは、フォルダに整理してすぐに活用できるシステムを構築する。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答率各 80%以上	・全学級ローテーションの「あいさつ運動」や、若松原地域学校園小中連携による「WGS あいさつ運動」を継続していくとともに、「あいさつ運動週間」における振り返りを行い、意識を高める。また、あいさつ標語を作ることで、意識を高める。 ・朝や帰りのあいさつに加え、様々な時と場に応じたあいさつの実践に向けて、取組を工夫していく。 ・日々のあいさつ運動の様子をホームページや各種たより等に掲載し、児童の様子を知らせ、PTA や地域協議会と連携し、「大人から進んであいさつする」活動を地域ぐるみで展開していく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は、89.6%、地域住民が 85.7%で数値指標を上回った。保護者の肯定的回答率は、78.5%で数値指標を若干下回った。 【次年度の方針】 校内及び地域学校園でのあいさつ運動や授業等の場面を通して、時と場に応じたあいさつの定着を図るとともに、校内だけでなく、登下校時の地域住民に対してのあいさつの充実も図っていく。 校内放送などを活用し、あいさつの大切さを伝え、啓発を続けていく。

B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答率 85%以上	・生活のきまり（「新田小のよい子の一日」）やマナーについて、児童・教職員・保護者が理解を共有し、同歩調で連携して粘り強く取り組む。 ・児童の実態をもとに、生活目標にきまりとマナーに関する目標を設定し、朝の会や帰りの会で振り返る活動を継続することにより、児童の主体性を高めながら習慣化を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は、91.6%で数値指標を上回り、昨年度よりも4.1ポイント上回った。保護者の肯定的回答率は、88.0%で数値指標を上回った。教職員は76.0%で、数値指標を下回った。 【次年度の方針】 生活のきまりを見直すとともに、きまりの意味を児童とともに考えていくことを通して、きまりの必要性を感じ取らせながら継続して指導することで生活習慣の定着を図る。 また、きまりやマナーに関する目標を設定し、帰りの会等で振り返る活動を日々継続することで、児童の規範意識を高めていく。 特に、年間を通じて指導していきたいきまりやマナーについては、教職員共通理解のもと、全児童に周知徹底していく。
B 3 児童は、家庭での学習に取り組み、学習の習慣化を図っている。 【数値指標】 学校独自アンケート「児童は、家庭での学習に取り組み、学習の習慣化を図っている。」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	・家庭との連携・協力を図りながら、児童自ら家庭学習の計画・実践・振り返りまでできるよう、支援に努める。 ・自主学習の手引きを作成したり、家庭学習のよい事例やノートを紹介したり、教室に掲示したりして、自主学習への意欲を高めるようにする。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率は72.8%であり、昨年度よりも3.7ポイント上回っているものの、7.2ポイント数値指標を下回った。 【次年度の方針】 自主学習の手引きを活用し、引き続き、自主学習への意欲を高めるようにする。更に家庭との連携・協力を図るために、家庭学習の計画・実践・振り返りができるよう、事例を紹介し、保護者への啓発活動を行う。
B 4 児童は本と親しみ、読書を楽しんでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「児童は本と親しみ、読書を楽しんでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 80%以上	・朝の活動時間帯の定期的な読書の時間や、ボランティアによる読み聞かせ、ブックトーク、読書週間での催し等、本に触れ合い親しむ多様な体験を通して、読書に対する興味関心を高め、楽しさに気付けるようにする。 ・本校図書の分館貸出し、市立図書館学校支援室の有効活用や、児童によるポップ作成で本の紹介をするなど、本を手にするための場を増やしたり、家庭と連携した家読（「家族読書」）を実践したりすることで、児童と本をつなぐ取組を推進する。 ・図書だよりの発行などを通して、児童の図書活用への意欲を高める。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は数値指標をやや下回った。教職員の肯定的回答率は96.0%で数値指標を上回った。 【次年度の方針】 業間や昼休みの自由開館や、授業内での図書館資料を活用し、本を手にする機会を増やすことで、貸し出しの活性化を図る。登校後の朝の活動時間帯に「読書タイム」を促し、本に触れる機会を設ける。

	B5 児童は、異学年交流を通して、思いやりの心など、豊かな人間性を育んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は、異学年交流で、多くの友達と助け合いながら楽しく活動している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 85%以上	・わくわくタイムでの縦割り班遊びや清掃活動、兄弟学年での農園活動や幼保小連携活動等を通して、助け合いや思いやりの心を育てる。 ・縦割り班の班長を中心に児童が主体的に活動できる機会を増やしたり、学年ごとに役割を与え、互いに教え合う機会を意図的に設定したりする。これらのことで、他の人のために役に立っているという意識（自己有用感）を高める活動を通して、互いのよさを見つけ、協調して活動しようという態度を育てる。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答率は 86.4%，教職員の肯定的回答率は 92.0%で、共に数値指標を達成した。縦割り班遊びや清掃、農園活動等、計画的に実施することができた。一方で、児童が主体的に活動したり、助け合ったりすることについては、十分とは言えない様子も見られた。 【次年度の方針】 学習や休み時間など、日常の中で交流できる機会を増やし、様々な学年と関わりをもてるようにする。また、上学年児童には、誰かの役に立つ経験を多く積ませることで、自己有用感を高められるようにし、下学年児童には、感謝の気持ちや、上学年児童への憧れの気持ちをもてるように支援していく。
--	--	---	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ 25項目中22項目で、肯定的回答率が数値指標を上回った。
- ・ 目指す児童生徒の姿の項目「健康や安全」「デジタル機器や図書等」「持続可能な社会」、目指す学校の姿の項目「特別な支援」「不登校を生まない学級経営」「活気があり明るくいきいきとした雰囲気」「学力向上」「チームとなり、協力」「業務の効率化」「家庭・地域・企業等との連携・協力」「安全に配慮した環境づくり」「デジタル機器やネットワークの点から授業を準備」では、保護者・地域・児童のうち該当する対象から高い結果が得られたが、昨年度よりも肯定的回答割合が下回った項目もあった。今後とも、本校・本地域のよさを生かし、協力・連携を深めながら教育活動を実施していきたい。
- ・ 保護者・地域・児童から高い結果が得られている目指す児童の姿の項目「主体的な学習」「思いやりの心」「健康や安全」「デジタル機器や図書等」「持続可能な社会」では、教職員の肯定的回答割合が、昨年度を下回っている。しかしながら、目指す児童の姿の項目「粘り強く」、目指す学校の姿の項目「いじめ指導」「不登校を生まない学級経営」では、教職員の肯定的回答割合が、昨年度を上回っている。教職員の意識の高さを感じるものの、課題解決に向けて、教職員が共通理解を図り、同一歩調で取り組んでいくことが重要である。今後も、協働体制で学校運営に取り組んでいきたい。
- ・ 本校の特色・課題である「異学年交流」においては、コロナ感染症の5類への移行により、少しずつ活動の幅を広げて活動を行ってきた結果、児童・教職員・保護者・地域で、肯定的回答割合が高い結果となっている。引き続き、学校での取組を保護者・地域に積極的に情報発信することを続けていきたい。また、「家庭学習の習慣」「進んで読書」においては、該当する対象の肯定的回答率が数値指標を下回り、昨年度に引き続き、課題が見られた。今後、さらなる改善に向け、工夫した取組が必要である。
- ・ 「健康や安全」「活気があり明るくいきいきとした雰囲気」「安全に配慮した環境づくり」については、地域住民の肯定的回答割合が100%であった。学校での取組を保護者や地域に積極的に情報発信することや、相互理解の下、より一層の連携・協力を推進する取組が重要である。
- ・ 未来を担う子どもたちのよりよい成長のために、本校のもつ地域の特色やよさを最大限に生かしながら、学校を取り巻く様々な実情にしっかりと目を向け、よりよい教育活動の再構築を目指したい。

7 学校関係者評価

★＜テーマ1＞「きまりとマナー」「あいさつ」

- ・ きまりを守り、学校生活を子供たちはこなしていると思います。マナーはいまいちもう少し注意されたらすなおにきいてほしい。
- ・ あいさつするようにはなりましたが朝は顔をあげて子供たちの方からあいさつが出来るようになると・・・。
- ・ コロナ前より、授業中に勝手に席を離れて回る児童が他校を含めて多少見受けられます。（特に低学年）学校は保護者に連絡して家庭にお願いする事が一番良いと思います。
- ・ あいさつは前より学童も地域でもあいさつしてくれます。（まず親御さんが示す事が第一です。）
- ・ 登下校中、あるいは授業見学等で生徒さんと出会うたびきちんとご挨拶をいただいております。しつけ指導が良くできているなと感じております。（自然な感じが好印象です。）
- ・ 校内におけるあいさつは積極的に実施されている。特に低学年児童は大きな声でとても気持ちがよい。
- ・ 家庭における日常の指導が必要である。
- ・ 現状のままで良い。
- ・ きまりとマナーは確実にを行うことが将来的に自分にとっても重要なことだと思われま。
- ・ あいさつはもっとも基本的であたり前のことなので確実にすべきと思う。
- ・ 1／16下校の様子を見ることが出来た。さようならのあいさつは、一部おおきな声で聞こえていた。
- ・ 校門前の横断歩道を渡るとき車が来る前に確認して、手を挙げて渡っていた。車もきちんと停止してくれて、安どした。一連がきちんと実施されているようでうれしい。
- ・ きまりとマナーについては、問題なく、守っているのではないかと感じています。
- ・ あいさつについては、自主的に出来る子もいれば、なかなかはずかしくて出来ない子中にはいるが、良く出来ているのではないかと思います。
- ・ いつも元気に登下校ボランティアの方にあいさつをしている姿を見られるので、とても素直だなと思います。
- ・ 学校では、「あいさつ運動」などを通してあいさつの大切さを日頃から伝えてくれていると思います。しかし、実際のところはなかなか習慣付いていないのでは・・・と思います。理由としては「恥ずかしい」「警戒している」「面倒だ」「興味が無い」などがあると思いますが、まずは大人が見本となり「大人対子供」だけでなく「学校と地域間」「地域・自治会内」など「大人対大人」で挨拶するところをしっかりと見せていくべきではないかと思います。校内や地域内で大人同士が挨拶をしていない場面を多く見ることがあります。子供は身近な大人をよく見ているので、自分自身を含めきをつけていきたいです。

★＜テーマ２＞「地域の教育力を生かした特色ある教育活動」

「家庭・地域・企業等との連携・協力」

- ・読み聞かせ、和太鼓、昔遊び、輪なげなどいろいろな事を活動していて子供たちが楽しく学べて良いと思います。
- ・今後、地域と企業には、学校の状態を照会して行く必要が有ります。特に会社の社長さんを訪問したり PR をしたりしていただく事が第一と考えられます。（案）として学校の運動会等に招待したらどうですか？
- ・特色のある教育活動の全体像は、なかなか分かりませんが、学校だよりやさくら連絡網を通じ、引き渡し訓練、人権週間の教育、お弁当の日等の実施により、家庭・地域等との連携・協力で充分意をもちいておられることを認識しております。
- ・連携、協力による具体的な教育活動の現状および課題等について知りたい。（学校側が何を求めどうしたいのかも含めて。）
- ・芋掘りなど活発に活動している。
- ・家庭、地域、企業等との連携、協力はなくてはならないものと思われ、社会生活の上で必要なことなので活動を進めることが必要です。
- ・このテーマについては良く解かっていないのでむずかしいが４０周年の記念になるテーマを「みんなで協力なかよく過ごす新田小」のスローガンに向って、みんなが一体となって実施してそうな気がします。
- ・地域、企業等との連携、協力については、地域協議会というより民生員やボランティア、コーディネーター様の苦勞が反映されていると考えます。
- ・コロナ前のようにはいかないけれど、状況に合わせて活動できていると思います。
- ・新田小学校は地域の方がいろいろと協力してくれるとても連携ができていると思います。
- ・地域には様々な特技や技術を持った「街の先生」になれる方がたくさんいらっしゃる様に思います。自治会が協力し、そういった方々に子供たちへ指導していただく機会が増えていけば良いのでは・・・と思います。
- ・まなび隊ボランティアは、家庭科以外でも授業のサポートができれば・・・（例えば、低学年のクラスが落ち着きがない為サポートしてほしいなど）先生方の負担軽減にもなるのでは？と考えます。

★＜テーマ３＞「児童の安全確保・危機管理」

- ・朝の見守りをして感じた事は、子供と車が北門から入る時一番気をつけなければならないと思います。時間で決まっているのですが、それが守られていないと思います。
- ・学童の安全確保は自分の目で判断して（特に信号機）
- ・自分の（命）は自分で守る教育をして行く必要が有ります。
- ・地域も年１回の防災訓練を学童にも呼び掛ける必要が有ると思います。
- ・地域協議会の席上においても通学路上の危険箇所について熱心な意見が出され、具体的な対応をされていることを承知しております。今度の能登大地震のような災害対応も定期的に必要なであると思います。
- ・登下校時における見守りは当然の事としても、公園等における安全確保（声かけ、あいさつ）が必要である。
- ・「こども１１０番の家」の再確認など、危機管理に努めている。
- ・児童が学校生活を進める上で単に安全確保がもっとも重要なことで、必要最小限な取組みをして行くことが必要と思われる。
- ・安全確保については、テーマ１で上げられるように、育成されているものと認識しています。危機管理は関係各位、民生員、ボランティア、コーディネーターが直ぐ使える交信（情報交換）ツールの拡充が必須と思われる。現状のさくら連絡網では、一方通行に近い発信なので相互情報ツール（LINE）の様なもの良いと思うが必要ではないだろうか？
- ・登下校の見守りは、児童の安全につながっていると感じています。見守りだけでなく危険な所などの共有や対応なども児童の安全確保につながっていると思います。
- ・教職員、ボランティアの方々など、継続して見守り活動を実施していただき感謝しています。
- ・下校時の兵庫塚街道方面での見守りが少なく感じます。兵庫塚街道は、歩道が狭い割に交通量が多い為、自分の自治会含め、下校時の見守りを増やせればと思います。

★その他 テーマ以外

- ・もっと学校にきらくに来て頂くテーマを教職員で考えたらどうですか？特に今後学校のボランティアはどう成るか、私も頭が痛いです。
- ・授業のほか、実施すべき事、求められることが多く、先生方におかれましては、毎日大変な事と存じます。地域自治会としましても、お手伝いできることに可能な限り対応したいと考えておりますので、遠慮なくお声掛け下さい。
- ・児童が楽しく学校生活を送ることが重要と思うので、毎日を充実させることが必要です。

- ・テーマ3に掲載しました。情報交換ツールの相互通信しやすいものを・・・。ただ人員は限定する必要あり。
- ・学校評議員制度から地域協議会、GS学校運営協議会制度への変遷は良い方向と思えるが、学校長の方針や決断実行がしにくくなる。ある程度の責任決定力は学校長に残すべきと思う。
- ・更に10年前の常識と今の世の中の常識のずれが学校の中でどうなっているのかが、今、気になっている。
- ・たくさんの方々の協力があって児童が守れているのは、大変ありがたいことです。
- ・学校の保護者にも校庭の草むしりなど、協力してもらえると、地域の方の負担も少なくなるのではと少し思います。
- ・少しぐらい、年1回ぐらいの協力もしてくれるとよいかと思えます。
- ・今後も学校と地域で連携をとりながら、子供達の成長を見守っていきたいと思えます。よろしくお願い致します。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<学校運営>

- ・重点目標に「個と集団を育てる教育実践、組織力・同僚性による効率的な職務の遂行、家庭・地域と一体となった取組の推進による、活気にあふれ信頼される学校づくりの推進」を掲げ、「認めて伸ばす教育」の実践やあいさつの響く学校づくりの推進、わかる授業の実践と居心地のよい温かな学級集団づくりの推進、読書活動の推進、勤務時間を意識した効率的な業務の遂行、学校だより、学年だより、ホームページなどを活用した子どもの姿を伝える積極的な情報発信を行い、保護者や地域の協力の下、教職員が一丸となって推進してきた。次年度も、教育目標である「よく考える子ども」「思いやりのある子ども」「体力のある子ども」「はたらく子ども」の実現を目指し、引き続き、学校と家庭、地域が協働し一体となって取り組んでいけるよう、ホームページやさくら連絡網などを生かし、情報発信を強化するとともに、教職員が互いに磨き合う意識を高め、切磋琢磨する場の充実を図るとともに、風通しの良い職場環境を高めることで、学校力を高めていく。

<学習指導>

- ・「自ら学び、互いに高め合う児童の育成～児童の「わかる!」「考える!」「伝える!」を高める授業の工夫～」を重点目標に掲げ、望ましい学習態度、習慣の定着や「学力の基礎・基本」の確実な定着、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、読解力・表現力の育成、読書活動の推進、家庭学習の習慣化、1人1台端末の活用について実践を繰り返してきた。今後も今年度の成果と各種調査の結果を踏まえて、更に児童の実態に即した「わかる!」「考える!」「伝える!」を高める授業の工夫を行うことにより、児童一人一人が学ぶことの本質的な楽しさを体感し、自ら学び、互いに高め合う態度を身に付けられるよう、実践を繰り返していく。また、地域素材や地域人材、地域の教育力を生かして、児童が互いのよさを認め合い、自分の思いを豊かに表現するための授業展開を追究していく。

<児童生徒指導>

- ・「自他への思いやりの心を持ち、豊かな人間関係を築くことができる児童の育成～いじめ根絶に向けた取組の充実および個に応じた継続的な指導を通して～」を目指して、礼儀を意識したあいさつの定着、規範意識の醸成や自己肯定感・自己有用感、自己指導能力を育む学級経営の工夫、主体性や思いやりを育むための縦割り班活動や異学年交流の充実、奉仕の心を持ち、自ら進んで仕事に取り組む態度の育成について、家庭・地域・関係機関と連携し、基本的生活習慣の定着と規範意識の醸成、望ましい学年・学級集団づくりに向けたよりよい人間関係づくりを推進してきた。今後も引き続き、学年・学級経営の充実を基盤とした自他への思いやりの心を持ち、豊かな人間関係を築くことができる児童の育成を目指し、課題となるあいさつ、きまりやマナー、時と場に応じた言葉遣いの定着に向けて、家庭や地域との連携を深めながら取り組んでいく。

<健康（体力・保健・食・安全）>

- ・「自らの健康に関心を持ち、望ましい生活習慣を身に付けようとする児童の育成～生活習慣の改善を目指した取組を中心として～」を重点目標に、家庭・地域と連携し、健康の保持増進や運動の日常化、食に関する指導の充実、判断力・行動力を育む安全教育、家庭・地域との連携について推進してきた。今後も、同重点目標に向かって、これまでの成果と児童の実態をもとに取組を更に充実させていく。児童が自らの命を自分で守り、健康を保持増進するために、主体的に考え、判断し、行動することができるよう、更なる指導の工夫改善を行う。その中で、困難への挑戦や苦手なことの克服等、夢や目標に向かって諦めずに取り組み、自己肯定感やたくましい心につながる体験を重視していく。